

（件名）北海道大学・シンガポール国内2大学によるワークショップについて

北海道と ASEAN 地域の相互理解促進のため、シンガポールの大学生（シンガポール国立大学（以下 NUS）、シンガポールマネジメント大学（以下、SMU））と北海道大学の学生による地域間交流ワークショップを開催しました。なお、本ワークショップは、北海道大学・北洋銀行・北海道の3者にて締結した「ASEAN 地域と北海道地域との架け橋となる人材育成に向けた取組に関する覚書」（平成 26 年 2 月）※に基づき実施しました。

■ワークショップ概要

日 時：2022 年 9 月 4 日（日） 13 時 ～ 17 時

主 催：北海道大学・北洋銀行・北海道

参加学生：15 名（北海道大学 6 名、NUS 6 名、SMU 3 名）

会 場：One & Co（シンガポールにあるコワーキングスペース） 会議室

内 容：大学生 15 名が 3 チームに分かれて「地域課題をグローバルな視点で解決する」というテーマについて活発な議論を行いました（議論は英語で実施）。

■プログラムについて**（1）オープニング**

ワークショップの狙いや目的を確認した後、他大学からの参加者とは初対面であることから、緊張をほぐすため自己紹介を実施しました。

（2）基本情報のインプット

司会から議論を進める上で必要な情報について関連資料を基にレクチャーを行いました。

（3）チーム討議①

「地域課題をグローバルな視点で解決する」というのは非常に大きなテーマであるため、まず、チームで、北海道とシンガポールに共通する、または相互の強みを生かすことのできるような「地域課題」について議論を行いました。

（4）発表①

各チームから議論する具体的な「地域課題」について、なぜその課題を選んだのかその理由を含めて発表を行いました。

（5）チーム討議②

各チームで決めた具体的な課題について、どのようにすれば解決の糸口がつかめるのかそれぞれの専門分野などの知見を基に議論を行いました。

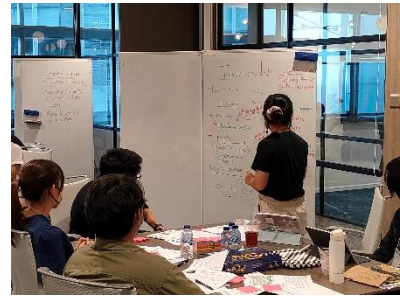
<各チームの議論の様子>

**（6）発表②**

（5）で議論した結果の発表を行いました。



＜発表の様子＞



(7) コメント

議論の結果について主催者である北海道大学の井上先生から総評をいただきました。

参考：各チームの討議結果について

(チーム1)

○選定テーマ：両国の文化の違いについて

○選定理由（地域課題）：日本には外国人にとって興味深い日本文化が根付いているが、英語を話すことにあまり重点が置かれておらず、外国人が訪日するのを躊躇ってしまうという懸念がある。一方、シンガポールは多文化社会であるが、それが故に国民性が弱くなり、優秀な人材が外国に流出してしまうという課題がある。

○解決策：日本においては、英語だけで行われる授業を増やす、地元のテレビ局で英語の番組を放映するといったことで英語の習得を促し、英語話者の数を増やすことを目指すべき。ひいては、外国人労働者の獲得にも繋がることを期待される。

(チーム2)

○選定テーマ：両国の食の安全保障について

○選定理由（地域課題）：北海道は高い食料自給率を誇るものの、次代の担い手が少ないという課題がある。一方シンガポールは面積が非常に狭い国であり、農業用地が限られている（食料自給率が低い）という課題がある。

○解決策：日本においては、農業を大学の共通科目に設定するほか、海外のメガファームへのインターンシップを行うことにより、若者が農業に興味を持てる環境づくりを行う。シンガポールにおいては、高層ビルや団地の屋上を利用するなどして狭い土地を有効活用し、食料自給率の上昇を目指す。

(チーム3)

○選定テーマ：両国の労働力不足について

○選定理由（地域課題）：両国とも人口減少・少子高齢化が進んでおり、将来的に労働力が不足することが懸念されている。また、北海道については札幌への人口集中や首都圏への人口流出も問題となっている。

○解決策：両国とも、観光やスマートテクノロジー分野に注力することにより労働力を確保すべき。前者について、北海道はあまり知られていない地方のツアー（ガイド付き）を売り出し、シンガポールではエンタメに特化した観光スタイルを築き上げると良い。後者について、北海道ではAIを用いて農業の発展を目指す、データセンターを誘致し労働人口を確保するといったことが求められる。一方シンガポールは、世界を代表するITハブなので、今後もより多くのIT従事者を獲得すべく、IT知識の学習機会の増加を目指すべき。

■所見

本来であれば、事前学習を行ったり、ある程度の時間をかけて議論をしたりするようなテーマについて、大変短い時間の中で議論をしてもらいました。議論の内容はもちろん重要ですが、それ以上に、全くバックグラウンド（国はもちろん、言語、専攻など千差万別）の異なる学生たちが、限られた時間の中で、ひとつのテーマについてコミュニケーションを取るといった経験はなかなか得難いものであったのではないかと思います。

参加者は15人と少ない人数ではありましたが、この取り組みが北海道とASEAN地域との相互理解の促進につながればと思います。

当事務所としては、今回の取組を踏まえながら今後も地域間の相互理解、人材育成に係る取り組みを実施してまいります。

（件名）マレーシアにおける旅行博について

当事務所では、2022年9月16日（金）～9月18日（日）にかけてマレーシアで実施された旅行博（Japan Travel Fair 2022）に参加いたしましたので、概要を報告致します。

■Japan Travel Fair2022 概要

日時：2022年9月16日（金）～18日（日） 11時～19時
 主催：日本政府観光局（JNTO）クアラルンプール事務所
 出展者：旅行代理店、自治体、小売店、鉄道会社等 計20以上の団体
 参加自治体：北海道、静岡県、長野県、高知県、熊本県（J Clairブース）
 茨城県、神奈川県、石川県、岡山県、沖縄県
 内容：各ブースによる観光PR、ステージイベント、ラッキードロー

■来場者からの反応

- ・北海道には冬に行ってみたい。雪を見てみたい。
- ・個人旅行が再開されるまでは旅行に行きづらい。早く個人旅行が再開してほしい。（※2022年10月11日（火）より個人旅行が再開されますが、旅行博当時は個人旅行再開に関する発表はありませんでした。）
- ・美味しい食べ物や温泉に入りたい。特に、北海道の新鮮な海鮮を一度味わってみたい。

■所見

コロナ禍以降初となる、シンガポール以外での旅行博への参加となりました。用意したパンフレット類が3日間で全て配布終了となるなど、シンガポール同様、北海道の人気が高いことがうかがえました。

個人旅行が再開されるにあたり、北海道への外国人観光客は増加することが予想されます。当事務所では、引き続き、より多くのASEAN地域の方々の来道につなげられるよう、様々な取組を行ってまいります。

■Japan Travel Fair 2022 の様子



←
会場全体の様子



←
事務所スタッフによる説明



←
インフルエンサーによる講演